井上 道義の 未来だった今より

♫ ナント

先週、フランスのナント市で、スクリアビン（ロシアの作曲家）の、響きに合わせて照明などを変える指定がある作品をロシアのオーケストラで演奏した。ナントはラフォルジュルネ（熱狂の日）発祥の地だが、ここでは寒い時期の音楽祭だ。雪こそ降らないが氷点下の日が続くので逆にすることがない？ためか、多くの客がやってくる。朝は8時まで暗いが音楽祭は9時から。夜は5時には真っ暗だが11時まで。文字通りFolle＝狂熱の催しだ。この街で有名なのは路面電車とバスの融合。中心部は車が入れず、人がゆったり歩けるようになっている。

北陸も豊かな北陸電力の電気で市電の電気代も無料、電気自動車の充電も無料、にしたら世の中変わらないか？

他の地方とのバランスや遠い未来を考えないFolleなおとぎ話とは思わない。近頃の日本は車で行ける店のおかげで街道沿いは電柱と電線のクモの巣状態で汚くバラバラだ。街であれ政治であれ、しっかりとした考え方と中心があるのが大事で素敵なこと。街に出ていって遊ぶことは飲み食いや買い物に行くだけでないのだ。子どもの頃、遊ぶことが生きるすべてであったように大人になって多分定年にでもなってから本当に生きる意味を見つけるためにこそ街が役に立たないと寂しすぎる。その際、夫婦や家族でなくてもいい、誰か一緒に行ける人がいることがすごく大事なんだろう。

金沢のラフォルジュルネは風も薫る5月。家族と一緒の子どもたちがたくさん参加できる無料吹奏楽や野外コンサートがあり街なかで聞こえる金沢方式は季節も優しく、気持ちよく、アジア的な未来志向だと思う。

（オーケストラ・アンサンブル金沢 音楽監督）

国際化の「知の

長野勇理事（研究・国際担当）

開かれた教育重視の研究大学」「東アジアの知の拠点」を大学憲章に掲げ、鋭意、大学の国際化を推進している。

日本政府は2008年、日本への留学生を20年をめどに30万人に増やすことを目指す計画を打ち出した。これを受けて金沢大学は、数年来350人程度で推移していた留学生数を増加させるべく「留学生増員計画」を開始した。

08年11月に国際交流本部を設置し、学内の各部局と連携を図りながら、国際化戦略を企画立案。留学生と日本人学生との異